

# 心理学実験Ⅱ

科目コード●050506

担当教員●西野美佐子・中村 修  
吉田綾乃・小林 愛

2 単位

SR

2 年以上

福祉心理  
必修

## 科目の内容

心理学は行動科学の一分野であり、どのような条件の下でどのような行動が生じるか、あるいは、ある行動はどのような条件で起こったのかなどということを明らかにしようとしています。そのための方法にはいくつかありますが、実験法もその一つです。

科学的知識とは、客観的事実として実証されたものをいいます。心理学では、特定の要因（独立変数とよびます）を系統的に変化させ、意識や行動（従属変数）がどのように変わるかということを明らかにしようとする手法があり、これを実験法とよんでいます。条件を厳密に統制するということに実験法の特徴がありますが、心理学実験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲでは、さまざまな角度から、この実験法について、その基礎を学ぶことを目標とします。

## 教科書

テキスト（プリント）は、スクーリング時に配布します。

## 授業の進め方

心理学実験Ⅱでは、下記の4つの実験を体験します。受講生を4グループに分け、1グループ1種目ずつ、①実験についてのオリエンテーション、②実験の実施、③データの整理・分析、④レポート作成という一連の作業を行います。翌日は、別の種目を経験し、4回ローテーションして全種目を終わることになります。

### ▶実験1「系列学習法」（小林 愛 担当）

記憶研究の先駆者といわれるエビングハウスが用いた伝統的な実験材料である無意味綴りを用いて、言語学習実験の代表的な3タイプのうち系列学習法（ある順序で呈示された無意味綴りをその順序どおり覚えさせる実験法）を実習し、系列位置効果（呈示された刺激がはじめの方にあるか、終わりの方にあるか等で学習しやすさに差があること）について調べます。

### ▶実験2「鏡映描写」（西野美佐子 担当）

一般に先行した学習が後続の学習に何らかの影響を与えることを学習の転移といいます。転移の一例として鏡映描写における利き手による練習の非利き手のパフォーマンスへの転移などともなう運動技能の上達過程を検討し、<sup>りょうそくせい</sup>両側性転移現象の有無、さらにはその理由について考察します。

### ▶実験3「概念学習」（中村 修 担当）

われわれは、いくつかのモノやコトが持つさまざまな特性のうち、ある特性群に注目（抽象）し、また他の特性群を無視（捨象）することによって、任意のカテゴリー（概念）を「心」の中につくりあげていると仮定できます。だからこそ、“アリ”と“ゾウ”を同じ“動物”とみなすことができます（ところで何が同じ?）。こうした概念作用に影響を与える諸要因について、実験的に検討します。

### ▶実験4「社会的影響」（吉田綾乃 担当）

他者へ影響を与えることおよび他者から影響を受けることを社会的影響といいます。その影響過程について実験的に検討します。

## 評価の方法

評価は、①それぞれの実験において指示された内容についてのレポートと、②スクーリング終了後に提出してもらった単位認定レポートの2つに基づいて行います。①に関しては、1種目でも欠席しレポートが提出されない場合にはその時点で単位が与えられなくなりますので気をつけてください。②に関しては、以下に示す4つの課題の中から1つを選び、指定期間内にレポートを作成して提出してください（字数は1,000字以上2,000字程度4,000字以内）。もちろん、未提出の場合、単位は与えられません。

## 単位認定レポート課題 スクーリング終了後1課題選択

課題 **1**  
(担当)  
小林 愛

系列学習において「なぜ系列位置効果が現れるのか」について文献やスクーリングでの体験などを参考にしながら考察しなさい。

課題2 (担当) 西野美佐子	両側性転移現象とは、身体の一方向の側の効果器（たとえば右手、右足など）を用いた練習が、他の側にある効果器（左手、左足など）に影響を与える現象であります。あなたのこれまでの生活で体験した両側性転移の中で、負の転移の例、正の転移の例を探し、転移に与える影響について考察しなさい。
課題3 (担当) 中村 修	次の4つの尺度について、日常生活の中から2つずつ例を挙げて、違いを説明しなさい。また、なぜ尺度をこのような4つに分ける必要があるのか、考察しなさい。①名義尺度 (nominal scale)、②順序尺度 (ordinal scale)、③間隔尺度 (interval scale)、④比率尺度 (ratio scale)。
課題4 (担当) 吉田綾乃	社会的影響に対するわれわれの反応は服従、同一視、内面化の3種類に区別される。それぞれの特徴とそれらが生じる条件について文献を参考に調べ、具体的事例を挙げながら考察しなさい。

## アドバイス

上記の課題から1つ選び p.207記載の期限内に提出してください。レポート用紙の「課題欄」に課題を、また表紙の科目名の右側に担当教員名を必ず記入してください。なお、レポートの字数は2,000字程度を標準としますが、16ページめまでを使用し最長4,000字程度まで記入していただいても結構です（パソコン印字の場合左右40字×30行×4枚まで）。

### 課題1 解説

スクーリング時の解説、配布する資料を参考にまとめてみてください。

### 課題2 解説

学習の転移は、さまざまな領域・場面でみられます。スキーを習う前にスケートをマスターしておく、一般的にスキーの初歩の上達は早いでしょう。また、軟式テニスをしていた人が、硬式テニスに切りかえた場合、ストロークやラケットの持ち方など、軟式独特のくせがなかなか抜けなくて困る場合もあるでしょう。しかし、軟式・硬式を問わないテニスに共通の点も多く学びやすいこともあるはずです。

このように、生活の中でさまざまな転移がみられますが、「両側性転移に関連する事例を探して、その事例を詳しく分析し報告してください」というのが課題です。まず両側性転移について一般的な心理学書、心理学辞典などで概念理解とその生起要因について理解したうえで、自分の生活を振り返り、正の事例、もしくは負の事例を探して、分析し報告してください。ちなみに、日常動作で見られる転移の例として報告されたものとしては、

- ・非利き手での箸の持ち方や卓球練習の上達具合・パソコンのキーボード操作の学習・耳掃除の手の使い方・マニキュアを左右の手で塗る時の動作学習・水泳練習時の

手の動きの学習・弓道の動作の「肘いれ」動作学習（この動きは非利き手の左手の動作で、利き手が右手の人から見れば困難学習課題です。そこで、利き手で練習してできるようになってから、非利き手で挑戦したところ、非利き手で、簡単にできた事例）・流れ作業で袋付めする動作を、立ち位置を逆にした場合の混乱、などなど、いっぱい見つけられることと思います。

### 課題3 解説

心理学の本というよりも、統計学、心理統計学、心理学研究法などの入門書などを参考になさった方がいいかもしれません。例を挙げて説明してもらうのは、調べたことを使って自分で考えたんだ！自分で見つけたんだ！というヨロコビを味わっていただきたいからです。ぜひお書きください。参考図書欄には、手元にあった文献のなかから少しあげておきます。

### 課題4 解説

スクーリング時の解説、配布資料ならびに参考図書を参考にまとめてください。

## 参考図書

課題1：スクーリング時に紹介します。

課題2：スクーリング時に紹介します。

課題3：山内光哉著『心理教育のための統計法〈第2版〉』サイエンス社、2003年

遠藤健治著『例題からわかる心理統計学』培風館、2002年

吉田寿夫著『本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』北大路書房、2003年

課題4：スクーリング時に紹介します。